



第 21 回雪氷路セーフティ ドライビングコンテスト

山崎亜里紗（北海道自動車短期大学 自動車工業科）

1. 概要

2011年12月17日、サップロティネ駐車場にて、(公社)自動車技術会北海道支部学生自動車研究会主催の第21回雪氷路セーフティドライビングコンテストが開催されました。昨年同様、東日本高速道路株式会社北海道支社様に共催していただきました。

本コンテストでは、乗り慣れていないレンタカーで、駐車場内にパイロンで設定したコースという公道とは異なった環境を運転し、タイムを競います。コンテストの参加を通じて、普段から自動車を利用していない方はもちろんのこと、運転に慣れている方においても、冬の北海道の路面環境である新雪・圧雪路面を安全に走行するための運転技術を身につけ、日常での安全運転につなげることを目的としています。またタイムトライアル以外にも、プロラードライバーの奴田原文雄選手をインストラクターに迎えてのデモンストレーションや、講習会も行われ、安全運転についての意識を高める良い機会になりました。

2. インストラクターによる安全運転講習会

タイムトライアルでのコースを解説しながら、奴田原選手に雪道安全運転講習会を行っていただきました。

自らの経験を含めながら、安全運転の重要性について話していただき、興味深い話を聞くことができました。特に、日常の運転の際に意識を高め

ることにより、ドライビングテクニックを向上させることができるなど、運転のプロからの言葉に、学生たちは真剣に耳を傾けていました。



図1 安全講習会

3. タイムトライアル

タイムトライアルは主催者側で用意したレンタカーの4WD車2台を使用し、2レーンに分けて行いました。昨年度まではFFと4WDなど駆動方式によりクラスに分かれての走行でしたが、今年は4WDクラスのみとなりました。



図2 タイムトライアルに使用したレンタカー

駐車場に図3のようにパイロンを設置して、コースを設定しました。スタート直後からスラローム走行し、ターン、帰りのスラローム走行の途中で車庫入れを行い、最後にストップポイントで停止するといった内容です。2レーンあるうち、左のレーンはゼッケンが奇数のグループ、右が偶数のグループで1人1ヒート走行し、順位が決定します。

他のルールとしては、パイロンタッチ及びストップポイントでのオーバーラン、車庫入れで指定されたエリアからはみ出して停車した場合や停車できなかった場合は、1回（パイロンは1本）に付5秒のペナルティ加算となります。また、ミスコースや、スタックで動けなくなった場合には走行中止となります。



図3 コースレイアウト

タイムトライアルには学生約40人、一般参加7人がエントリーしました。走行前にインストラクターもしくは運営スタッフによる同乗走行を行い、コースルートや雪の状態の確認を行いました。

今年の雪質は圧雪路面でしたが、何台か走行したことによりタイムトライアル開始時には氷が露出した路面になっていました。そのため、コースを大きく外れてしまったり、ストップポイントでオーバーランをする場面が多くありました。また、スラロームの途中で車庫入れがあったため、多くの方が苦戦していました。雪道での「走る・曲がる・止まる」の難しさを身をもって体験し、雪氷路面の運転の難しさを改めて体験することができ

ました。

4. インストラクターデモンストレーション
タイムトライアル終了後、奴田原文雄選手による、デモンストレーション走行が行われました。抽選での同乗走行もあり、運良く当選した人は世界レベルのテクニックや迫力を間近で体感することができ、興奮を抑えきれないようでした。普段はなかなか無い機会だけに、参加者からは大変好評でした。



図4 デモンストレーション走行中の車内

5. 表彰式

安全運転講習後に表彰式を行い、学生、一般各部門の1位から3位までが表彰され、メダルと副賞を授与されました。

表彰式を終え、無事に雪氷路セーフティドライビングコンテストを終了することができました。今回の体験を生かし、これからも安全運転を心がけてほしいと思います。



図5 表彰式後の記念写真